第一次世界大戦期イギリスにおける戦時救護活動 イギリス赤十字社・ボランティア救護部隊の確立と 戦時合同委員会の成立をめぐって

黒川 章子*

戦時傷病兵救護を目的として第一次世界大戦前の1909年、イギリス陸軍省は、「ボランティア救護部隊（Voluntary Aid Detachments：VAD）計画」を作成した。このボランティア救護部隊の設立過程で、陸軍省は赤十字社を統括機関とする戦時救護体制をつくろうとしたが、このことは、赤十字社設立以前から救護活動を続けていた聖ヨハネ救急車協会と赤十字社の間に主導権争いを生じさせた。しかし、総力戦を戦うという共通の目的のために、両組織は、互いの確執を乗り越えてボランティア救護部隊の設立に取り組んだ。その結果、1910年から第一次世界大戦中にかけて、イギリス全国に部隊がつくられ、1918年には、3382部隊を数えるまでになった。多数の国民、特に女性たちがボランティアな意志でこの活動に参加していった。さらに、赤十字社と聖ヨハネ救急車協会の上部組織である聖ヨハネ修道会は、陸軍省の要請に応じて、1914年10月には「イギリス赤十字社・イギリスにおけるエルサレムの聖ヨハネ修道会戦時合同委員会 Joint War Committee of the British Red Cross Society and the Order of St. John of Jerusalem in England」を設立した。対外的にはイギリス赤十字社は唯一の戦時救護組織であったが、実質は赤十字社と聖ヨハネ修道会によって構成されていた。戦時合同委員会成立後、両組織は、赤十字の標章のもとに共同で戦時活動に携わっていった。陸軍省は、より効率的な救護活動のために、赤十字社、聖ヨハネ修道会というボランティア救護組織を巻き込んだ戦時救護体制を確立したのであった。これこそが、ボランティア諸組織とそれを支える人々の力を活用したイギリスの戦時救護体制の特徴であった。

キーワード：赤十字社、ボランティア救護部隊、聖ヨハネ救急車協会、戦時合同委員会、パートナーシップ

目次	
はじめに	(1) 赤十字支部の設置
1. ボランティア救護部隊志願者の資格問題	(2) 軍の戦時マニュアルにみる赤十字の役割
陸軍省、赤十字社、聖ヨハネ修道会の関係	3. 第一次世界大戦期の赤十字：「イギリス赤十字社・イギリスにおけるエルサレムの聖ヨハネ修道会戦時合同委員会（以下、戦時合同委員会と略称）」の設立
(1) ボランティア救護部隊員の資格問題をめぐる赤十字社、聖ヨハネ修道会、陸軍省	(1) 戦争の勃発と赤十字社の訴え
(2) ボランティア救護部隊志願者の資格および教育内容の決定と部隊の設立	(2) 赤十字の活動と軍を始めとする他機関との協力
2. 赤十字支部の確立	(3) 戦時合同委員会の設立
	おわりに

* 立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程

はじめに

本稿は、第一次世界大戦期のイギリスにおける戦時救護活動体制の確立過程を追跡し、その特徴を明らかにすることを目的とする。特に、陸軍省が、1909年8月に立案したボランティア救護部隊編成計画に基づいて創設した「ボランティア救護部隊 Voluntary Aid Detachments: VAD」¹⁾の確立と第一次世界大戦勃発後に大きな役割を果たした1914年創設の戦時合同委員会の成立に焦点をあてて、その性格を検討する。

陸軍省は、軍医療部隊だけでは戦争の際に十分な傷病兵救護を行えないことを1899年から1902年の南アフリカ戦争で思い知らされていた。とはいえ、いつ起こるかもわからない戦争に備えて、常設部隊として多数の医療部隊員を抱えておく余裕はなかった。したがって、戦時に緊急に召集でき、軍の医療部隊と共に傷病兵救護にあたる補充部隊を必要とした。

イギリスにおける民間の戦時救護活動は、1858年のイタリア戦争の時から行われていたが、戦時救護組織として確立したのは、1870年の「イギリス全国救護協会 British National Aid Society」からである。アンリ・デュナンの呼びかけで国際赤十字が誕生した7年後のことであった。「イギリス全国救護協会」は普仏戦争を契機に設立され、後にイギリス赤十字社となった組織である。また、「イギリス全国救護協会」とは別に、「聖ヨハネ救急車協会 St. John Ambulance Association」も救護活動を行っていた。聖ヨハネ救急車協会は、「イギリスにおけるエルサレムの聖ヨハネ修道会 (The Order of St. John of Jerusalem in England: 本稿では聖ヨハネ修道会と略称す

る)」に所属する組織であり、炭鉱、道路、工場などでの事故の際の救護組織として1877年に設立され、応急処置の指導と救急活動の訓練を行っていた。1887年には聖ヨハネ救急車協会の訓練を受けたメンバーによって聖ヨハネ救急車部隊が設立された。部隊は戦時には陸軍省の要請を受けて傷病兵救護を行っていた²⁾。また、スコットランドでは、「聖アンドリュウ救急車協会 St. Andrew Ambulance Association」が1882年から事故や急病人のための救助活動をはじめ、戦時には傷病兵救護にも携わっていた。

このように、いくつかの戦時救護組織が個別に救護活動を行っていたが、非効率性の克服と、国際赤十字の成立による単一の救護組織の確立の必要性から、陸軍省は戦時救護組織の統一を図ろうとした。それは、1898年に「イギリス全国救護協会」を改組して、「イギリス赤十字中央委員会 Central British Red Cross Committee」を創設し、さらに、1905年に「イギリス赤十字社 British Red Cross Society」を誕生させた動きとして現れる。しかし、赤十字再編後も統一的な戦時救護体制がすぐに整ったわけではなく、いくつかの克服すべき問題が伏在していた。特に、イギリス赤十字社と聖ヨハネ救急車協会との間には、部隊員の資格問題、両者が行っていたばらばらの救護活動、両者が個別に陸軍省と折衝していることなどの問題があった。

このような経緯をたどるイギリス赤十字に関する研究³⁾についてみると、最も重要な先行研究はジョン・F・ハチンソン (John F. Hutchinson) の *Champions of Charity* [1996年]⁴⁾である。ハチンソンは、赤十字が戦争とともに発展してきたことを実証し、イギリス赤十字社についても同様であることを明らかにしている。なかで

も、1870年に設立された「イギリス全国救護協会」、1898年に陸軍省の公式承認を得て創設された「イギリス赤十字中央委員会」が、陸軍省あるいは、ほかのボランティア諸組織とどのような関係の中で生まれたのかを詳細に論じている。そのなかでハチンソンは、複数のボランティアな戦時救護組織の並存、ボランティア組織間およびボランティア諸組織と陸軍省との間の複雑な関係をイギリスの特殊性として描き出し、これら諸組織間の軋轢を乗り越えて、赤十字が戦時救護活動に取り組み基盤が形づくられていったことをていねいにたどっている。

しかし、ハチンソンは、1910年から1914年の期間、つまり、ボランティア救護部隊の確立過程と赤十字社・聖ヨハネ修道会戦時合同委員会の設立の経過については多くを語っていない。しかし、ボランティア救護部隊は、戦時救護体制の中でも最も重要な存在であった⁵⁾。

また、戦時合同委員会は、それまで戦時救護活動における主導権争いを行っていた赤十字社と聖ヨハネ救急車協会が陸軍省の要請を受け入れ、総力戦のための共同行動をとる機構であった。1914年10月の戦時合同委員会の設立は、イギリスの統一的な戦時救護体制の枠組みが出来上がったことを意味した。

したがって、本稿では、ハチンソンが十分に言及しなかったボランティア救護部隊の確立過程と戦時合同委員会の成立の意味を陸軍省、そのほかのボランティア組織との関係のなかで再確認し、イギリスにおける戦時救護体制の確立過程とその特徴を明らかにする。

1. ボランティア救護部隊志願者の資格問題 陸軍省、赤十字社、聖ヨハネ修道会の関係

(1) ボランティア救護部隊員の資格問題をめぐる赤十字社、聖ヨハネ修道会、陸軍省

1909年に陸軍省から発表されたボランティア救護部隊計画を受けて各地でボランティア救護部隊が組織されていった。しかし、ボランティア救護部隊の組織化に関わって問題が生じた。というのも、応急処置と看護の資格取得証明書を発行していたのは、聖ヨハネ救急車協会のほかにも、ロンドン州議会(London County Council)、サリー州議会などがあったが、部隊への加入を志願する者は、すでにほかの組織から応急処置の資格を得ていても再度、聖ヨハネ救急車協会の訓練を受けなければならなかったからである。1909年のボランティア救護部隊計画のなかでは、志願者は聖ヨハネ救急車協会の資格証明書の保有が条件付けられていた。それは、聖ヨハネ救急車協会が、民間で応急処置と看護の教育を行ってきた唯一の組織であり、1905年にはすでに応急処置と家庭看護の教育プログラムを確立していたからであった。しかし、志願者にしてみれば、すでに応急処置の資格証明書を保有しているのに、なぜ、再度聖ヨハネ救急車協会の証明書訓練が必要なのか納得できなかった。赤十字社と聖ヨハネ救急車協会には問い合わせが相次いだ。

赤十字執行委員会はこの問題の解決を求めて、1910年1月29日、陸軍省へ問い合わせをした。陸軍省は、2月25日、「ボランティア救護部隊計画は軍評議会によって、赤十字社への手引きとして作成されたものであり、従って、本来の根本方針から逸脱しない範囲で修正を行うのは赤十字社の仕事の範疇である」⁶⁾と回答

を寄せた。これが、陸軍省のボランティア救護部隊計画に対する態度であった。すなわち、ボランティア救護部隊計画は、赤十字の戦時傷病兵救護という目的に沿って作られた「手引き書」であり、陸軍省は大枠を作成するが、赤十字社がその細部を埋めていくことを期待した。従って、陸軍省は隊員の応募資格の内容まで立ち入るつもりはなかったし、特にこの問題に介入することによって聖ヨハネ救急車協会とのこれまでの協力関係を壊すことも望まなかった。そして、陸軍省は戦時救護のために働くボランティアがどの程度の看護能力が必要なのか明確な基準を定めていたわけでもなく、また、赤十字社やほかのボランティア組織とどのような関係を築いていけばよいのかについても確固とした方針を提案したわけでもなかった。こうして、応募資格問題に関する解決は、赤十字社へ委任された。

赤十字執行委員会は、軍からの回答を受けて、応募者の資格条件を満たすための教育に関してはすべて聖ヨハネ救急車協会に委託することを決定し、1910年3月4日、その旨を、各支部へ通知した。執行委員会の決定は、赤十字社はボランティア救護部隊志願者の教育に関しては関わらず、それまで看護教育に携わってきた聖ヨハネ救急車協会に依頼すること、しかし、

加入後12ヶ月以内に資格取得の見通しがあれば無資格者もボランティア救護部隊に加入できること、そして、聖ヨハネ救急車協会以外の団体による資格も赤十字執行委員会が認定した場合には有資格とすることであった⁷⁾。

赤十字社がボランティア救護部隊志願者の資格条件を決定したのを受けて、部隊員の資格問題をはじめ部隊設立に関わる問題を審議するために、陸軍省は、1910年5月28日、国防予備

軍州連合協議会（Council of County Territorial Association）、赤十字社、聖ヨハネ救急車協会、軍医療部隊の各代表からなる「陸軍省ボランティア救護部隊諮問委員会」の設立を提案した⁸⁾。陸軍省は、ボランティア救護部隊の設立をより迅速に進めるために、関係諸団体が合同で協議する必要性を感じ、この提案を行ったのである。しかし、聖ヨハネ救急車協会はこの委員会に参加することを拒否し、ボランティア救護部隊計画から撤退することを宣言した。聖ヨハネ救急車協会は、資格証明書発行が他の組織にも認められることをよしとしなかった。それは単に証明書発行の独占権を失うということだけではなく、教育と訓練の内容に自信を持っていた聖ヨハネ救急車協会としては、適当な教育で証明書を発行することに異を唱えたのであった。

聖ヨハネ救急車協会撤退後、「ボランティア救護部隊諮問委員会」は同年の6月から12月にかけて部隊メンバーの資格問題と部隊の組織化に関して計画の変更を行った。その結果、同年6月17日に、陸軍省は、聖ヨハネ救急車協会の資格証明書保持を志願者の条件からはずすことを正式に発表した。資格については、「部隊志願者は、正規の教育を受けた看護婦、薬剤師、元兵士、病人の付き添い経験者、コックを除いて応急処置の資格を持っていないならば⁹⁾とされ、資格を必要としない志願者の範囲が元兵士、付き添い経験者にまで拡大された。

また、部隊組織化に関しては「国防義勇軍州連合が適切だと考えるならば、多様な方法で部隊の設立をしてもよい」と決定され、諮問委員会には参加しなかった聖ヨハネ救急車協会にも部隊志願者に資格を与えるための教育及び部隊組織化の権利が与えられることになった。諮問委員会は、聖ヨハネ救急車協会の応急処置と看

護教育に果たしてきた実績を活用しようとしたのである。聖ヨハネ救急車協会もいったんは計画から撤退したが、聖ヨハネ救急車協会が教育した人々がその成果を発揮できる場としてボランティア救護部隊は必要であった。以前とは異なり、聖ヨハネ救急車協会だけで独自で戦時救護活動を行う状況ではなくなっていた。赤十字の旗のもと以外では戦時救護活動は不可能であった。聖ヨハネ救急車協会も部隊の組織化を行うことを決定した。その結果、ボランティア救護部隊を組織できるのは、国防義勇軍州連合、赤十字社、聖ヨハネ救急車協会、および聖ヨハネ救急車部隊の4者となった。

これ以降、陸軍省は一方的に物事を進めていくのではなく、ボランティア諸組織の意向を常にはかりつつ陸軍省との協力関係に引き入れていこうとした。それは、日露戦争の視察に行ったW・G・マクファーソン少将（Major General. W.G.Macpherson）が、日本の赤十字救護班の優秀さに感銘を受けながらも、イギリスでは中央集権的な日本の体制とは異なり、イギリスの伝統であるボランティア組織とその運動を活用してイギリス赤十字社を確立しようとしたからであった¹⁰⁾。一方、ボランティア組織も主体性を確保する努力をしつつ、自らの組織の目的を達成するために軍に協力し、また軍の力を利用しようとした。総力戦においては、戦時ボランティア救護組織はそれに見合っ、人員の拡大、資金の増大を迫及し、そのためには、陸軍省による承認と連携を必要とした。そのことが、国民の関心と呼び、ひいては組織の拡大につながったからである。赤十字社にとっても聖ヨハネ救急車協会にとっても、ボランティア救護部隊を組織する権限を持つということは、陸軍省との関係を強化することを意味した。

陸軍省の承認という権威は、ボランティア組織の発展にとって決定的な意味を持った。

こうして、陸軍省は、戦時傷病者救護ボランティア諸組織と、戦争準備という目的のために緊密な関係を結んだ。その意味でこの時期は、陸軍省と赤十字社をはじめとするボランティア救護諸組織が、総力戦を戦う上で自らの役割や互いの立場を探りつつ行動し、新たな関係をどう構築するのかをそれぞれが模索していた時期であったといえるだろう。赤十字社も自らの組織の確立と同時に、ボランティア救護部隊の組織化という全く新しい事業を始め、かつその過程で陸軍省や他のボランティア組織との関係を築いていかなければならなかった。赤十字社は、陸軍省が「赤十字への戦時傷病兵救護のための手引き書」として作成したボランティア救護部隊計画を具体化していく過程で、主体的立場を確立していった。

（2）ボランティア救護部隊志願者の資格及び教育内容の決定と部隊の設立

赤十字社はこのような状況の中で、部隊設立の促進のための重要文書を発行した。まず、ボランティア救護計画が発表されて2年後の1911年11月14日、赤十字社は部隊員の資格条件を作り出していった。これまで論議されてきた部隊メンバーの資格および部隊の組織化に関する変更と隊員への教育内容の概要を提示した。男性の志願者は、薬剤師、元兵士、元病人の付き添い人、コック、大工を除いて応急処置の資格が必要とされた。女性の場合は正規の看護婦とコックを除いて応急処置と家庭看護の資格を持っているか、または12ヶ月以内に資格をとらなければならないと決められた¹¹⁾。この決定を受けて多くの赤十字支部が部隊メンバー

養成のためのクラスを開催していった。応急処置または家庭看護の試験に合格した参加者の名簿は州の赤十字書記官、ついで、赤十字本部書記官に送られ、資格証明書が発行された。

また、志願者のためのテキストとしては、J. Cantlie (J. Cantlie) 大佐の「赤十字応急処置」と「赤十字看護」が使用されることになった。応急処置の講義は1から5、家庭看護の講義は1から6に分類されていた。聖ヨハネ救急車協会も独自の応急処置と看護教育のプログラムを持っており、両組織の家庭看護の講義の項目は、以下のようなものであった（表1参照）。

赤十字社と聖ヨハネ救急車協会の家庭看護の講義項目を比較すると、それぞれの組織の性格を反映した相違点が明らかである。聖ヨハネ救急車協会は南アフリカ戦争に多数の衛生兵を送っており、戦時の看護活動の重要性を認識して、1905年にすでに看護の講義内容を決定していた。ボランティア救護部隊の隊員志望者に当初、聖ヨハネ救急車協会の家庭看護の資格証明書が必要とされたのは、聖ヨハネ救急車協会がどの組織よりも早く確立された家庭看護教育のプログラムを持っていたからであった。講義内容をみても、赤十字社の講義内容はより詳細である。また、赤十字社の講義には、ボランティア救護部隊が1910年から設立され始めたことを反映して、「屋外」「仮設シェルター」「救急列車」などでの看護も含まれており、まさしく戦時を想定した内容となっている。一方、聖ヨハネ救急車協会独自の項目としては、講義4に含まれる「病気の子ども看護」と講義5のなかの「個人と家族の健康法」がある。これをみれば、聖ヨハネ救急車協会が日常の生活における各種事故の救急活動から生まれたことを反映

し、より日常生活に密着した活動にもかかわっていることが明らかである。

講義内容をみると共通点が多いが、1911年に赤十字社が独自の家庭看護の講義内容を決定した際に、聖ヨハネ救急車協会の講義内容を参考にしたであろうことは、講義項目の順番や内容の類似から推測できることである。もう一つの重要な共通点は、身近なものを活用して緊急事態に対応することが強調されたことであった。

一方、正規看護婦のための教育内容は、ナイチンゲールによってすでにつくられていた。ナイチンゲールは、1865年の「インドの病院における看護 付録 イギリス陸軍病院における総監督、監督、及び看護婦の任務に関する規則」のなかで、看護婦の職務の一部として、以下の内容をあげている。

看護婦は常に医務官の病棟回診に同行し、医務官の指示があればその指示に従って、与薬、身体不安、お茶、サゴ、アロールト、牛肉スープの調理、自力でできない患者の食事介助、蛭、発泡膏の貼用、パップ湿布、小包帯巻き、浣腸の施行、病棟の適当な暖房と換気を行う。

看護婦は患者の身体の清潔、リネン類、寝具、道具の清潔、そしてたとえば就床とか体位の保持といった医務官からの指示を患者が守っているかどうかといったことに関して責任を持つ。そして病棟、調度品、道具が清潔であるか、朝の回診の前にオーダリー（雑役夫・筆者）が自力でできない患者を清拭しているかなどに注意を払う¹²⁾。

この教育内容を見ると、戦時を想定した項目以外、赤十字社および聖ヨハネ救急車協会のものほとんど同じである。しかし、同じくナイチンゲールは、1882年の「看護婦の訓練と病人の看護」のなかの「一、看護婦にとってよい

表1 赤十字社と聖ヨハネ救急車協会の家庭看護に関する講義内容

	赤十字社の講義内容	聖ヨハネ救急車協会の講義内容
(講義1)	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽と病室の向き, 空気の立法容量の見積り, 換気 - 方法の種類, 不十分な換気の弊害, 空室・埃まみれの部屋・洗濯室の清掃, 暖房と火の管理 ・ベッドの位置, ベッドの整理整頓, ブランケット整理その他 ・巻き包帯の使用の実地訓練 	<p>病室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに - 選択, 準備, 病室の清掃 - ベッドと寝具 - 備品 - 部屋の暖化と換気 ・巻き包帯の使用の実地訓練
(講義2)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の例 - 感染の拡大, 隔離の重要性, 感染による熱の一般的状态, 感染による熱の段階, 隔離, 腸チフス熱の処置と看護, 回復期患者の看護, 患者・衣服部屋の消毒, 屋外・仮設シェルター・救急列車での看護の一般的観察 ・巻き包帯の使用の実地訓練 	<p>感染と消毒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染と非感染の事例 - 患者の隔離 - 発熱の原因 - 消毒と消毒剤 ・巻き包帯の使用の実地訓練
(講義3)	<ul style="list-style-type: none"> ・脈拍・呼吸・体温の測定, 体温計とグラフ, グラフへの記入, 体温変化の意味, ベッドの整理整頓, シーツ交換, シーツの整理, 折りたたみベッドの整理, ベッドの保温, ベッドの支柱台とゆりかごの即席作製, その他 ・巻き包帯の使用の実地訓練 	<p>看護の詳細</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護婦 - 訪問者の規制 - 看護婦の自己管理 - 患者の体の清拭と衣服の着用 - ベッドメイキング - シーツ交換 - 自力で動けない患者の移動 - 病人食 - 食物, 薬, 興奮剤の管理 ・巻き包帯の使用の実地訓練
(講義4)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護婦・衣服・義務・休息, 患者のナイトガウンの着替え, 患者の体の清拭, ・患者の食事 - 食事の正確な量・種類・食事時間・患者ごとの食事時間, 食器, 台所用品と清潔さの維持, ・吸収と排泄, ・巻き包帯の使用の実地訓練 	<p>看護の詳細 - 続き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病人の観察 - 悪寒 - 睡眠 - 痛み - 姿勢 - 皮膚 - 食欲 - 嘔吐 - 咳 - 痰 - 治療の効果 - 体温の測定 - 風呂 - ベッド - 触れると痛い場所 - 一時的錯乱 - 病気の子どもの看護 - 内科医と外科医の往診の際の準備 ・巻き包帯の使用の実地訓練
(講義5)	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の処方, 薬ビン, 錠剤・粉末・オイルの与え方, ・浣腸の使用法 ・温湿布, パップ剤, 発泡剤, 蛭の使用法 ・風呂 - 冷水・微温水・温水・高温水とそれぞれの効果 ・興奮剤の使用法 ・巻き包帯の使用の実地訓練 	<p>個別の治療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湿布 - 温湿布 - 皮膚の水(火)ぶくれ - 軟膏 - 蛭 - パッド(あて物) - 添え木 - 包帯 - 個人と家族の健康法 - 回復期患者の管理 <p style="text-align: right;">(修了)</p>
(講義6)	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の記録 - 睡眠・静養・咳・嘔吐・下痢・皮膚の状態・排泄の回数と状態 ・傷の手当て, 床ずれの処置 ・濃い牛肉のスープ・チキンスープ・生牛肉 (rawmeat) ジュース・適切な飲み物 ・回復期患者の処置 (修了) 	
作成年	1911年	1908年(1905年初版)
(注)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は実際のかつ基本的なものであること ・緊急時に備えて手に入るものを利用すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護訓練コースと応急処置コースの両コースを受講し試験に合格することを奨励

出所: 赤十字社の講義内容については, *British Red Cross Society, British Red Cross, FormD (4), Red Cross Voluntary Aid Detachments, Syllabus of Lectures on Red Cross First Aid and Syllabus of Lectures on Red Cross Nursing*. 1911.11.14. および聖ヨハネ救急車協会の講義内容については, *Thekla Bowser, Six Lectures to St. John V.A.D. Members*, Birmingham: Cornish Brothers LTD, 1918.

訓練のための学校の要件」では、看護婦教育に必要なこととして次のような項目をあげている。

- (1) 病院の病棟内での少なくとも1年間の技術的訓練。可能ならば、2年目により進んだ理論的講義とともに病棟看護婦として（昼夜間）の訓練。地域看護婦については、さらに3ヶ月間の貧しい人々の病床看護の訓練。看護見習生については婦長による週ごとの及び総婦長による月ごとの訓練記録。
- (2) 臨床講義。化学の講義。生理学の講義。内科や外科の総括的講義。1年間に少なくとも4回の筆答または口頭試験。専門書籍を蔵した看護婦のための図書館¹³⁾。

また、「二、すべての見習生のための課程」の一部では、以下のことを学習することになっていた。

- (1) 次の病院各分科のひとつかそれ以上の病棟で継続的に仕事をする。男子そして女子の外科、男子そして女子の内科、産科、眼科、性病科の各科で1、2ヶ月ないし3ヶ月。
- (2) 1年間の訓練中に少なくとも1ヶ月の（1回に2週間の）夜勤勤務の経験。
- (3) 特殊な症例（卵巣摘出術、チフス患者など）の看護の担当。
- (4) あらゆる種類の包帯術を学ぶ。
- (5) 婦長から「カルテ」またはベッド票の読み方を学ぶ。
- (6) 病院勤務の日誌をつけること。
- (7) 医学教師が選んだ症例について、症例報告を書く¹⁴⁾。

正規看護婦は、講義内容の範囲の広さと専門性、多方面にわたる臨床体験、日誌や報告書の書き方、病院体制を把握するための経験、試験制度による継続的学習など、ボランティア救護

部隊の看護婦とは全く異なる、より専門的な教育を受けた。

これに対し、赤十字社や聖ヨハネ救急車協会などのボランティア救護組織の看護婦への教育内容は、「家庭看護」と呼ばれたように、家庭においても実施可能で役に立つ範囲のものであった。したがって、講義内容は、あくまで実際的かつ初級程度に限定された。というのも、部隊の役割が、軍医療部の補完役であり、多数の看護婦が緊急に求められていたからである。したがって、高度な看護教育は必要ではなかった。また、正規の看護教育を受けた看護婦たちとの摩擦を避けることも重要な問題であった。正規の教育を受けた看護婦とは明らかに異なる、言い換えれば低い位置にボランティア救護部隊の看護婦を置いておくことが必要であった。3年にわたる看護教育を受けた正規の看護婦から見れば、簡単な講義を受けて突然に現れたボランティア救護部隊の看護婦は、自分たちの仕事を脅かす存在として写ったのは当然のことであった。後に、部隊が実際に活動を始めるとこの問題が顕在化し、時にはボランティア救護部隊の看護婦が正規の看護婦から「スト破り」要員とみなされる事態も起こるほど、ボランティア救護部隊の看護資格保持者と正規看護婦の関係は、ギクシャクしたものであった¹⁵⁾。しかし、正規看護婦とボランティア救護部隊の看護婦の間の緊張関係も戦争初期のことであり、戦争が長引くにつれ、絶対的な看護婦不足と誠実な働きぶりによってボランティア救護部隊看護婦は次第に受け入れられていった。

1911年11月14日のボランティア救護部隊加入者の資格および講義内容が発表された後、1912年10月、バルカン戦争が勃発したが、赤十字社は「イギリス赤十字バルカン戦争基金」

表2 地域別ボランティア救護部隊数（1918年7月現在）

地 域	男性ボランティア救護部隊					女性ボランティア救護部隊						
	州 国 連 防 義 義 合 勇 軍	赤 十 字 社	救 急 車 協 会	聖 ヨ ハ ネ	救 急 車 部 隊	計	州 国 連 防 義 義 合 勇 軍	赤 十 字 社	救 急 車 協 会	聖 ヨ ハ ネ	救 急 車 部 隊	計
ベッドフォード州		2				2		23				23
バーク州		6				6		33				33
バーミンガム					9	9					17	17
ブリストル		2			1	3		6				6
ボックス	4				1	5	15	4		7		26
ケンブリッジとイーリー島		9				9		25				25
チェ州		21	2		1	24		77	2		9	88
コーンウォール		3			2	5		33			3	36
カンバーランド		4		1		5		16		1	2	19
ダービー州		3			4	7		21		1	5	26
デボン州		14			2	16		52			2	54
ドーセット		4				4		48				48
ダーラム	1	1			36	38		5			46	51
エセックス		19			5	24		54			12	66
グロースター州		12			1	13		50			1	51
ガーンジー			1			1				1		1
ハンブ州		6			3	9		71		3	17	91
ヘレフォード州		1				1		6				6
ハーフォード州		6				6		30		1		31
ハンティンドン		6				6		11				11
ウェイト島		5				5		13			1	14
ジャージー						0		3				3
ケント	4	14	13			31	14	55		21		90
ランカ州（東）		31	5		4	40		93		45	3	141
ランカ州（西）	7	1	11			19	5	3		35		43
マン島						0				2		2
レスター州			3		6	9		1		6	13	20
リンカン州（南）		7			1	8		16				16
リンカン州（北）		1			3	4		18		1	1	20
ロンドン市		15				15		12				12
ロンドン	1	16			6	23	1	134		6	13	144
ミドルセックス	6	3	12		4	25	11	7	2	23	3	46
ノーフォーク		17			1	18		68		1		69
ノーサンプトン州					4	4					15	15
ノーサンバーランド	1	4			18	23	2	25			24	51
ノッティンガム州		13	2		7	22		42		4	5	51
オックスフォード州					1	1		20			2	22
ラトランド		5				5		6				6
シュロップ州						0		17		2	9	28
サマセット州		16			1	17		63			1	64
スタフォード州		18			1	19		61			1	62
サフオーク		21			2	23		45			5	50
サリー		18			1	19		66		1	3	70
サセックス		25			3	28		92			4	96
ウォリック州		14			1	15		42		2		44
ウェストモールランド					2	2	1	3		8	1	13
ウィルト州		6				6		28				28
ウスター州		4				4		30				30
ヨーク州（東ライデンング）		21				22		38			BRCS*	41
ヨーク州（西ライデンング）	15				12	27	63				25	88
ウェールズ（13地域）		38	1		31	70		209		28	5	242
アイルランド（23地域）		3			18	21		35		1	34	70
アルスター（11地域）		1	5		2	7		50		105	2	157
合 計	39	436	56		195	726	102	1961		308	285	2656

注：1）地域名の表記については、資料に沿って訳した。したがって、州名や都市名、島名などが混在している。

2）*は、ヨーク州の東ライデンングの聖ヨハネ救急車部隊が設立した、男性1部隊、女性3部隊には赤十字も共に関わっていたことを示す。

3）ウェールズ、アイルランド、アルスターについては、表記した地域数ごとの合計部隊数を掲載した。

出所：Central Joint VAD Committee, *List of Voluntary Aid Detachments in England, Wales, and Ireland.*

London: Central Joint VAD Committee, 1918.7.より、筆者作成。

を集め、軍医3人、手術助手3人、事務員1人、外科医1人、コック1人、男性看護兵5人、雑役夫5人を派遣した¹⁶⁾。ユニフォームや用具一式が支給され、全員に給料が支払われた。この経験から1913年6月に開催された赤十字評議委員会は、陸軍省によってボランティア救護部隊の活動が要請された時には、用具やユニフォームのための財源として各部隊に10ポンド支給することを決定した¹⁷⁾。こうして、ボランティア救護部隊は、1910年10月202部隊6222人、1911年3月470部隊1万4025人、1911年7月944部隊2万7639人、1912年3月1155部隊3万4134人¹⁸⁾と2年足らずの間に約5倍へと急速に拡大していった。

第一次世界大戦終末期の1918年には、設立された部隊数は合計3382部隊にまで及んだ。その内訳をみると赤十字社が設立した部隊が2397、聖ヨハネ救急車教会によるもの364、聖ヨハネ救急車部隊によるもの480、国防義勇軍州連合によるもの141であった（表2参照）。

まず、総部隊数のなかで、男性部隊は約21%、女性部隊は約79%を占めている。ボランティア救護部隊は圧倒的に女性によって支えられていた。男性は兵士として戦争に参加していったからである。

男女とも赤十字社によって組織された部隊が最も多く、赤十字社が戦争準備のなかで全国的に部隊を組織していったことがわかる。男性部隊では、赤十字社の組織によるもの約60%、聖ヨハネ救急車協会によるもの約8%、聖ヨハネ救急車部隊によるもの約27%、国防義勇軍によるもの約5%、女性部隊の場合は、同様に、それぞれ約73%、約12%、約11%、約4%であった。男性部隊は女性部隊に比べて、聖ヨハネ救急車部隊によって組織された部隊が多い。

これは、聖ヨハネ救急車部隊が戦時のみならず、日常のあらゆる場所で救護活動を行ってきており、その活動に多くの男性が参加していたからであろう。

赤十字社が男女ともに多くの部隊を組織したのは、ウェールズ、ランカ州、サセックス、チェ州であり、同じく、聖ヨハネ救急車協会は、ミドルセックス、ランカ州、聖ヨハネ救急車部隊は、バーミンガム、ダーラム、ノーサンバーランド、アイルランドに影響を持っていた。男女部隊別にみると、赤十字社は、男性部隊では、ウェールズ、ランカ州（東）、サセックス、サフォーク、チェ州、ヨーク州（東ライデング）、女性部隊では、ウェールズ、アイルランド、ロンドン、ランカ州（東）、サセックス、ケント、チェ州に多くの部隊を組織した。聖ヨハネ救急車協会は、男性部隊をケント、ミドルセックス、ランカ州（西）、女性部隊をランカ州（東および西）、ミドルセックス、ウェールズ、アルスターで多数組織した。聖ヨハネ救急車部隊は、男性部隊をバーミンガム、ダーラム、ノーサンバーランド、ウェールズ、アイルランドに、女性部隊をバーミンガム、ダーラム、ノーサンバーランド、アイルランドに組織した。

赤十字社と聖ヨハネ救急車協会の影響力が及ばないヨーク州（西ライデング）では、国防義勇軍が部隊の組織化を行い、女性部隊を多数設立した。また、ここでは、聖ヨハネ救急車部隊と赤十字社が共同で4部隊を設立した。

首都ロンドンと世界的な綿工業地帯であったランカ州では、飛び抜けて多くの女性たちが部隊に参加した。両地域とも、女性の労働人口が多く、女性の社会参加への抵抗が低かったことは容易に想像できる。

バーミンガムやノーサンプトン州のように、

赤十字社が男女とも部隊を組織化できない地域もあった。ガーンジー、ジャージーおよびマンのような島々では人口も少なく、1部隊から4部隊というごくわずかの部隊しか設立できなかった。地域の実情はさまざまであった。

このように、産業、女性の社会参加、階級、人口、などのその地域特有の状況によって、ボランティア救護部隊の設立のしかたは異っていた。だからこそ、4組織が協同することによって、赤十字のみで行うよりはるかに多数の部隊を設立することができ、大きな成果をあげることができたのである。スコットランドでは、聖アンドリュー救急車協会が、救護部隊の組織化を担っていた。

部隊員の男女比率を見ると、男性部隊は女性部隊の4分の1強である。男性はまず兵士として戦争に参加していったからである。そして、当初は男性の仕事として位置づけられていた救急車の運転手や担架運搬も女性が担うようになっていくが、それは、男性不足のための緊急時における一時的補充であった。

2. 赤十字支部の確立

(1) 赤十字支部の設置

赤十字社はボランティア救護部隊志願者への教育内容の確立と各部隊への資金援助を決定し、部隊を設立していくための支部体制の整備に取り組んだ。具体的にボランティア救護部隊のメンバーを募集し、訓練し、養成していくのは赤十字社の各支部である。そのため、支部の組織を確立し、財源を確保していくことが緊急の課題となり、1913年7月18日赤十字本部は、赤十字支部の確立およびその任務に関する通達を発表した¹⁹⁾。

まず、構成員を会員（Members）、准会員（Associates）、支持者（Adherents）とし、年会費をそれぞれ1ポンド1シリング、5シリング、5シリング以下を払うことが義務とされた。会員と准会員については、年会費の代わりに戦争勃発時にそれぞれ5ポンド5シリング、5ポンドを寄付する方法もあった。そして、どの構成員も自分の会費を赤十字の日常の活動かボランティア救護部隊活動のどちらに使用したいのが決定することができた。これ以外にも、支部は、助手（Assistants）という名称で支部の活動を手助けする構成員を募集した。これは今というボランティアと考えられる。また、赤十字勲章を受けた全女性と5講義を連続して行った講師には名誉会員（Honorary Members）としての資格が与えられた。

1913年の赤十字本部からの通達によると、支部はイギリスの植民地を含む帝国全域の州、都市、町で組織され、上記の構成員が各支部を構成することになった。イギリス本土以外では、主要支部のもとに地方支部、イギリス国内においては、州（County）支部がいくつかの地区（District）に分割された。地区は大きな都市の場合には都市と郊外に別々の地区、小さな町の場合には合同で一つの地区というように、その地域の規模や状況によって分割された。主要支部と州支部は区域内の地区支部を指導することになった。主要支部は年1ポンド1シリングを登録費として赤十字協議会に支払う義務があり、赤十字本部からは必要文書が送られることになった。こうしてイギリス帝国中を通じて赤十字支部の設立とその財源と活動を支えるための構成員の組織化が推進された。

地方支部の役割は、会員と准会員の登録、会費と寄付金の収集、赤十字活動の宣伝で

あった。特に、募金活動は、財源確保の目的とともに、支部が各地域において国民と直接接するなかで赤十字を浸透させていく上でも重要な事業であった。一方、主要支部または州支部の仕事は、戦時における支部の援助活動の決定、赤十字協議会によって認可される赤十字と同様の目的を持つ他の組織や団体との協力活動、支部の年次会計報告書と年次活動報告書の執行委員会への提出、その地域内の地方支部活動の管理と組織化とされた。州支部の仕事としてあげられた年次報告の義務と州内の支部の活動の指導管理は組織として当然のことであったが、他団体との協力の強調は特に、聖ヨハネ救急車協会との確執をなくし、協力関係を築いていくことを支部に徹底させようとしたものであった。本部から支部へ活動内容を指示するのではなく、各支部がどのような活動ができるか自ら決定させようとした。各支部は、会員、准会員、支持者のリストと会費、寄付、活動内容を記録保管し、毎年、その進行状況を執行委員会に報告し、執行委員会は会費と寄付を公表することが決定された。

財政に関しては、会費や一般的な目的で集められた資金とボランティア救護部隊のための資金は明確に区別された。部隊のために集められた資金は州支部によって保管され、部隊の組織化、訓練、州内の部隊の設備のために使用されることになった。部隊のための資金は他の目的に使用してはならず、州内の部隊の設立と維持が停止されたときのみ、その州の赤十字の一般資金に移されることになった。一方、支部から執行委員会へ送られた一般資金は、他の資金と区別され、イギリス軍が参加する戦争でのみ使用され、その際、可能な限り支部によって決定された特定の目的につぎ込まれると決められ

た。自分が募金をした資金が部隊のために使用されることは、募金に応じたり会員になった地方の住民にとっては、赤十字をより身近なものに感じられるようになったはずである。また、イギリス軍が参加する戦争にのみ資金を利用するということは、国民が寄付した資金でイギリスの兵士が救護されることになり、国民の愛国心をより高め、赤十字への募金および行動への参加を促そうとしたものであった。

赤十字の理念である「敵味方の区別なく傷病兵を救助する」こととは矛盾する「自国の兵士が参加する戦争での救助活動にのみ財源を使用する」という赤十字社の決定は、赤十字が、戦時にはその国の軍の管理下に入るという「機構の国家的性格」²⁰⁾によるものであった。「国家的機構」である赤十字は、当然ながら、自国の利益を最優先した。実際、赤十字は、第一次世界大戦以降も自国の人々を優先的に救助することが多かった。

1905年の赤十字社の再編でイギリス赤十字社は新たな道を歩き始めた。そして、1909年の陸軍省によるボランティア救護部隊計画を受け入れ、1911年に部隊メンバーの資格と教育内容を決定し、1913年には、各支部の体制確立のための構成員と会費および寄付金について規則を定め、ボランティア救護部隊の具体的活動のための準備を整えていった。それは、赤十字社が一部の上流階級・中流階級を中心とする戦時のみの救護活動組織から、全国民の参加を目的とし、平時の活動も行う全国的組織へと移行していく過程であり、同時に、軍との関係を強めていく過程でもあった。

（2）軍の戦時マニュアルに見る赤十字の役割

一方、陸軍省も戦時のマニュアル（Field

Service Regulations, Part : Organization and Administration) を作成し、イギリスが参戦する2日前の8月6日、新聞に発表した。そこには、「戦時の傷病兵救助に関わる聖ヨハネ救急車協会と聖アンドリュー救急車協会以外のすべてのボランティア諸組織の申し出は、赤十字社に提出すること。赤十字社はそれらの申し出が実際の価値があると判断した場合、軍評議会に連絡をとること」「活用されることになったボランティア組織と多様な提供品は分類され、赤十字社に集約されること」²¹⁾になっていた。

この戦争マニュアルで重要なことは、まず第一に、陸軍省が赤十字を管理下に置こうとしたことである。赤十字社が国民各階層からの提供物を大きく二つに分類し、陸軍省に報告する。陸軍省は、赤十字社によって吟味され、利用価値があると判断されたものの中から活用したいものだけを利用すればよかった。赤十字社は、その前身「全国傷病者救護協会」の時代から、陸軍省と一定の距離を置き、自立性を保とうとしていた。陸軍省もまた、赤十字社に依拠しなくとも戦時救護活動が展開できると考え、また、ボランティア救護組織に全面的信頼を置いていたわけでもなかった。陸軍省は、第一次世界大戦勃発後でさえ、赤十字社の方からの200台の救急車と1000人の訓練を受けた看護婦の提供の申し出を一旦、断っている²²⁾。しかし、戦争の長期化の可能性のなかで、陸軍省は、赤十字社を利用せざるを得ないことを悟ったのである。戦争遂行のために、陸軍省は、赤十字社を管理下に置こうとした。

第二に、陸軍省は、すべての戦時救護組織と救護活動への意志のある個人を赤十字社の管轄下に置こうとしたことである。戦時傷病兵救護

組織の活動が重複、混乱を極めていた経験から、また、ジュネーブ条約で赤十字社が一国を代表する救護組織であると規定されたことを受けて、陸軍省は戦時にすべての組織を赤十字社の管理下に置き救護活動の効率化をはかろうとした。ここでは、物品や家屋、建造物などのあらゆる提供の申し出をすべて赤十字社が管理することになった。陸軍省は、医療の補助部隊を始めとする必要な人員をボランティア救護部隊に結集させるだけでなく、すべての物品についてもこのように赤十字社に集約させることを計画していた。

第三に、重要なことは、陸軍省が、赤十字社をほかのボランティア救護組織の統括者として位置づける一方で、聖ヨハネ救急車協会と聖アンドリュー救急車協会を赤十字社の管轄から除いたことであった。陸軍省のこの対応は、赤十字社を苦しめるものであった。

3. 第一次世界大戦期の赤十字：戦時合同委員会の設立

(1) 戦争の勃発と赤十字社の訴え

1914年6月28日、サラエボでオーストリア皇位継承者夫妻が暗殺されたのを契機として、7月28日、オーストリアがセルビアに宣戦布告をし、第一次世界大戦が勃発した。この事態を受けて、7月31日、赤十字執行委員会が開催され、イギリスが戦争に参加した場合を想定して、赤十字としての戦争準備にかんする論議が行われた。その結果、戦争という事態になれば赤十字の活動にとって有効だと考えられるすべての人間と協力すること、「バルカン戦争基金」の残額を救助活動費として利用することが決定された²³⁾。「すべての人間」「すべての組織」とは、軍、王室、メディア、他のボランティア

諸組織，産業界，そして一般の国民であり，言い換えれば，イギリスおよび植民地を含む帝国中のまさしく「すべての人間」を意味した。実際，赤十字社は戦時中，これらのあらゆる分野の組織や人間を巻き込んで活動を拡大していった。

1914年8月4日，イギリスはドイツに宣戦布告をし，戦争に参加していった。8月4日のイギリスの宣戦布告以来，赤十字社は陸軍省と他のボランティア諸組織と連携，調整を行いつつ，活動を展開していった。まず，赤十字社は国民向けのパンフレットを作成し，赤十字の意義や活動内容を国民に広めようとした。8月8日にはアレキサンドラ王妃から，15日には赤十字議長のロスチャイルド卿（Lord Rothschild）から基金を募るためのアピールが出された²⁴⁾。11日付のモーニング・ポスト紙は多数の女性たちが応急処置と看護の講義に参加し，赤十字の活動に加わるべく赤十字本部を訪問していることを伝えた²⁵⁾。

8月31日付のタイムズ紙はかなりのスペースを割いて赤十字の存在意義について書き，国民に募金を訴えた。傷病兵を救護することは本来，軍の仕事であるのに，なぜ，赤十字がそれを行わなければならないかを赤十字の歴史も省みながら次のように説明した。

...軍医療部が戦争という非常時に行うことのできないことがある。平時の状況と戦時の状況はあまりにも異なるので戦時に要請されるすべてのものを平時に維持することはできない。戦争に次ぐ戦争でボランティア組織の補完的援助が，公的組織が提供できないギャップを埋めるのに非常に有効であることを証明してきた...²⁶⁾。

タイムズ紙は，このような観点から，戦時に

おける一般的なボランティア組織の存在意義を認め，第一次世界大戦におけるイギリス赤十字社の任務を次のように具体的に述べている。

...現在の戦争は，公的機関にはできないが赤十字にできる仕事を行う特別な機会を我々に与えている。戦争は大陸で行われ，〔傷ついた〕兵士たちは前線からフランスの港へ送られ，そして，イギリスへ連れてこられる。この移送の問題は，重傷を負った兵士には非常に重要な問題である。もし，彼らが傷つき倒れた場所で救護されたならば，兵士たちの生存のチャンスは増すだろう。しかし，それは不可能である。〔その代わり〕彼らは野戦病院へ収容され，基地へ運ばれる。彼らの旅は苦しく，多くの場合，苛烈な体験である。ここにこそ赤十字の存在価値がある。赤十字は軍医療部ができない行為によって兵士たちの苦難を軽くすることができる。〔しかし〕軍当局は前線からの負傷者の乗った列車に，医者や看護人，雑役夫などを付き添わせる余裕はない。旅は長く消耗するものであり，最初は〔戦場〕から海岸へ，それから船へ，そして海の旅となる。イギリス南部の港サウサンプトンに到着した後，そこからネトレイの病院への最後の旅となる。赤十字社はこの旅で兵士たちの世話をする。赤十字はこの目的にかなうまさしく完全な組織である。〔例えば〕兵士たちが乗船する港にある休息所では，兵士は列車から降ろされ，医療を施され，食料と休息を与えられ，そして船に乗せられる。赤十字が行う多くの機能のなかから一つを取り上げたが，これは非常に価値のある活動である。もし，この仕事資金不足のために滞ったり，消滅させられたりしたら，〔兵士たちにとって〕悲惨なことになるだろう²⁷⁾。

第一次世界大戦における赤十字の最大の任務である軍医療部の補完というのは，「負傷した兵士に，医療を施し，食料と休息を与え，重傷の場合は病院へ，回復すれば戦場へ送ること」であり，その場所が休息所，補助病院，回復期療養所，救急列車，病院船と変わるだけであっ

た。1858年のイタリア戦争以来、ボランティアな傷病兵救護組織は重要な役割を果たし、軍医療部の不足を補ってきた。しかし、総力戦であった第一次世界大戦では、戦時救護活動にも大きな変化がもたらされた。第一次世界大戦では、毒ガス、戦車、飛行機が大規模に使用され、負傷兵の数も膨大であったからである。小規模な限定的戦争であれば、軍医療部隊の救護活動で何とか対応できたが、総力戦においては全く不十分であった。タイムズ紙のアピールがいうように「軍当局は、...医者や看護人、雑役夫などを付き添わせる余裕はなかった」。特に、徴兵制がまだ制定されていなかったイギリスでは、一人でも多くの男性を兵士にしたいというのは軍にとって切実な問題であり、看護人は兵士となる男性以外から徴用する必要があった。タイムズ紙の赤十字の意義と活動参加のアピールはこうした軍の事情を説明し、国民の感情を喚起する上で大きな役割を果たした。これ以降もタイムズ紙には、赤十字社のアピールや活動報告が、頻りに掲載されるようになった。

(2) 赤十字の活動と軍を始めとする他機関との協力

宣戦布告後から戦争初期に赤十字社が真っ先に取り組んだのは、戦争によって多量に生まれるであろう傷病兵のための病院設置の問題であった。第一次世界大戦前、イギリスの病院体制は全く不十分であった。1914年時点で陸軍病院にはわずか9千床しかなく²⁸⁾、軍は他の施設の利用と国民からの家屋の提供でこの不足をしようとした。多くのイギリス人が自らの邸宅を仮設病院や診療所として利用するように陸軍省に申し出た。陸軍省はこれらの申し出を赤十字に回し、取捨選択し分類するように要請した。

約3000の家屋がリストアップされ、陸軍省はその中から、ベッド数にして2万床となる約700の家屋を補助病院として利用することを決定した。陸軍省と赤十字社の連携プレイで病院の体制が整ったが、このことは、「陸軍省へ殺到した問題を赤十字社が解決することによって、緊急事態の対応に混乱していた政府への多大な貢献となったことは疑いない」²⁹⁾。戦争初期の6ヶ月間にこれらの仮設病院の少なくとも80%が患者でうまったが、イギリス兵だけでなく、インド人、ベルギー人、フランス人の兵士も含まれていた³⁰⁾。

赤十字社は、多数の家屋の提供を受けたが、ロンドンや他の地域でも、回復期にある将校たちにホテルの部屋が提供された。また、内科、耳鼻科、眼科、呼吸器科、それぞれの科の医者が無料で傷病兵の治療にあたった³¹⁾。赤十字社の備品部門は、送られてくる物品と赤十字社自ら購入する物品を、赤十字病院を始めとする病院、休息所、回復期療養所に提供した。赤十字のアピールに応じてイギリス国内だけでなく、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、インド、南アフリカ、西インド諸島などイギリスの植民地、保護領からも衣服や日用品が送られてきた。これらの物品はフランスやベルギーなどの外国とイギリス国内の563の病院へと送られた³²⁾。

赤十字の活動を支える財源の確保にも総力戦ならではの取り組みがなされた。財源をどこから確保するのは重要な問題であったが、募金収集のための委員会が設立されたのは、戦争勃発後、4ヶ月を経た10月6日であった。委員会は、イギリス中の職業団体に呼びかけ、各職業団体ごとに赤十字への基金を募るよう要請した³³⁾。美術競売協会クリスティーズ(Christie's)

は、頻繁にオークションを開催し、中流階級および上流階級の人々は宝石や絵画などを提出し、赤十字の募金に応じた。新聞や雑誌は、赤十字社からの募金依頼やコメントに無料で紙面を提供した。特に、タイムズ紙は常時、赤十字に関する記事や募金依頼の宣伝を掲載した。8月19日に初めての募金箱が置かれて以来、1万7628の募金箱が赤十字本部からイギリスの至る所へ送られた³⁴⁾。募金箱は銀行、クラブ、船上、鉄道の軽食堂劇場、映画館、そしてクリスマス時期のホテルなどに置かれた。奉公人のような決して豊かではない層にも「奉公人赤十字基金」が設置され、奉公人も多くの募金を行った。募金箱以外にも、多くの人々は、週ごと、または月ごとにいくばくかの金を赤十字社に寄付した。イギリス赤十字切手やポスターも売りに出され、「Our Day」が設定され、この日には、国中上げての赤十字への募金活動が取り組まれた³⁵⁾。

多様な手段を通じて資金が集められたが、募金活動は同時に赤十字の活動の宣伝ともなった。あらゆる場所に募金箱が置かれ、各団体ごとに募金活動が取り組まれ、新聞や雑誌には日常的に赤十字活動の意義と募金への訴えが掲載された。それらすべての活動に「赤十字」という文字と標章が刻まれた。こうして「赤十字」は戦時下の国民生活に深く浸透していった。

（3）戦時合同委員会の設立

赤十字社による戦時救護活動が進む一方で、以前から救護活動をしていた聖ヨハネ修道会をはじめとして、各ボランティア組織はこれまでの慣行通り、それぞれに援助の申し出や独自の活動を展開し、ボランティアな力を赤十字社に結集しようと考えていたわけではなかった。赤

十字社はこの事態に耐えかね、1914年8月19日赤十字執行委員会議長ロスチャイルド卿が陸軍大臣キッチナー（Kitchener）へ手紙を送った³⁶⁾。彼は、無責任な申し出や資金の要請があること、赤十字の名称と標章の使用に関して赤十字に決定権がなく困難な状況に陥っていること、そのため責任ある政府の省庁が赤十字が抱えているこれらの問題の現状を理解するために赤十字常任委員会に陸軍省の代表を派遣するよう訴えた。すなわち、赤十字社は責任ある軍当局との協同作業がなければ、赤十字社に求められている任務を遂行できないと訴えたのだった。陸軍省は9月3日になって軍長官を退職したL・ガビンズ（L.Gubbins）卿を陸軍省からの代表に任命し、赤十字社の要請に応えた。

赤十字社がボランティア諸組織の統括責任団体になることの困難を訴えたのに対し、聖ヨハネ修道会も1914年8月24日、事務局長H・ペロット（H.Perrott）の名前で陸軍大臣に手紙を送った³⁷⁾。果てしのない混乱、遅滞が生じており、修道会の救急車部門がまず赤十字社によって承認されなければならないという規則に縛られて活動が妨げられていると不満を述べた。そして、聖ヨハネ修道会は、戦時のボランティア救助に関わるすべての問題について赤十字社の管理下に入るのではなく、赤十字社と同等の立場に立てるよう要請した。軍評議会は、ボランティア組織間の協力を進めると同時に、陸軍省とボランティア組織の協力を推進するために、1914年8月29日、陸軍省、赤十字社、聖ヨハネ救急車協会、聖アンドリュウ救急車協会、陸海軍人援助協会（Soldiers' and Sailors' Help Society）、海軍省を招いた。陸軍省も、ボランティア救護諸組織とどのような協力関係を築いていけばよいのかを模索していたのであ

る。この会議は1915年8月まで毎週一回、それ以降は1918年の終戦まで毎月一回開催され、戦時救護活動に関して論議が行われた³⁸⁾。いくつものボランティアな救助組織が個々ばらばらに活動をするには多くの浪費を生み出し、陸軍省はこの事態を放置しておくことはできなかったのである。特に赤十字社と聖ヨハネ修道会の関係を明確にする必要があった。

赤十字社と聖ヨハネ修道会は、1914年8月4日以降も個別に基金を募り、救護活動を行っていた。8月29日には「赤十字基金」が「ザ・タイムズ基金」へと変更され、これ以降、募金は赤十字社と聖ヨハネ救急車協会が折半することになった。9月14日にはタイムズ紙は、聖ヨハネ救急車協会からの国民への戦時救護活動の協力要請の訴えを掲載した³⁹⁾。その訴えのなかで、聖ヨハネ修道会は800年の歴史を持ち、「わが国における赤十字の先任者であること」、また、「救急活動のパイオニアであること」を表明した。これに対応して赤十字執行員会副議長のA.K.ロイド(A.K.Loyd)は、赤十字と聖ヨハネ修道会との継続性はないこと、救急活動のパイオニアはイギリス軍の医療部隊で始まり、1871年の普仏戦争における全国救護協会の活動とその報告から発展させられたものであると主張した。しかし、赤十字社は、戦争という緊急時において聖ヨハネ救急車協会との関係悪化を望まず、A.K.ロイドの見解はそれ以上、問題にされなかった。赤十字社には、前述の経過にもかかわらず救護組織の統括者としての地位は、いまだ与えられていなかった。

赤十字社は、陸軍省が戦時救護組織の統括者としての赤十字社の立場を明確にすることを期待していたが、1914年9月7日付けのタイムズ紙に掲載された9月6日付け陸軍省から赤十

字社あての手紙、「タイムズ赤十字アピール一週間以内に12万8000ポンドを 新たな寄付金リスト 軍評議会からの感謝」に、またしても陸軍省に裏切られた思いをした。手紙の全文は次のようなものであった。

陸軍省、ロンドン、S.W.
1914年9月6日

拝啓、

私は、軍評議会がイギリス赤十字社の活動を非常に興味深くみており、タイムズ紙上での赤十字社の訴えに国民が寛大に応じていることに大変満足していることをお伝えしたいと思います。

特に、軍評議会はあなた方が、イギリス赤十字社を構成していると政府によって承認されているほかの組織と共同して活動していることを知って大変喜んでます。偉大な事業は、イギリス赤十字社と聖ヨハネ修道会救急車部門の協力によって成し遂げられるのです。そして、私はあえて申し上げたいのですが、評議会は、この二つの組織が愛国的に受け入れてくれた重大な責任のある義務を認識しています。

あなた方の活動に対する要請は長期間、続くかもしれません。しかし、評議会は赤十字社と聖ヨハネ修道会がイギリスの寛大な国民からの寄付金を1ペニーでさえ節約して使うと確信しています。

国民が赤十字社と聖ヨハネ救急車協会の両方を支援し続けること、そして、支援することで、陸海軍人援助協会と聖アンドリュー救急車協会によって行われている傷病兵のための活動を共有することになると理解することを、評議会は確信しています。

敬具

R.H.ブレイド

ロスチャイルド卿

イギリス赤十字社 執行委員会議長⁴⁰⁾

この手紙からは、陸軍省が赤十字社をボランティア救護組織の唯一の統括機関と認識しているとは思えない。聖ヨハネ修道会と全く対等の立場しか与えられておらず、文末にはほかのボ

ランタリー組織の名さえ記載されている。しかも、国民が赤十字の名のもとに寄付を寄せていることに満足しつつ、聖ヨハネ修道会と赤十字社を同等に扱っている。赤十字社の失望は大きかった。陸軍省は、赤十字社、聖ヨハネ救急車協会双方からの効率的な救護活動の要請に対して、これまでと同じ回答をし、赤十字の旗のもとに、赤十字社と聖ヨハネ救急車協会が同等の立場で協力することを求めた。陸軍省は、赤十字社を聖ヨハネ救急車協会の上に位置づけることはしなかった。

しかし、一方で、陸軍省は、戦争の進展と共により効率的な救護活動の確立を目指す必要にも迫られていた。陸軍省が提案したのは、赤十字社と聖ヨハネ修道会共同で救護活動にあたる委員会の設立であった。赤十字執行委員会では、この合同委員会に関して論議が行われた。ここでは、合同委員会が特殊な状況下のものであることを確認したうえで、合同委員会の目的は、まず第一に、多額の寄付金の利用方法を論議し、活用すること、そして第二に、救護活動の重複と混乱を避けること、第三に、両組織は、互いに協力することと確認された。赤十字社は、組織の自立性と立場を失うことを最も恐れた。もし、自立性を失う危険が起これば直ちに合同委員会の解散を要求すること、詳細な活動内容の決定は、手を縛ることになり、避けるべきことが論議された⁴¹⁾。しかし、最終的には、赤十字社は戦時傷病兵救護という目的の前に合同委員会の設立に同意した。

こうして、三者は戦時救護活動の効率化のため合意に達し、1914年10月24日、赤十字社と聖ヨハネ修道会は協定を結び、戦時合同委員会を設立した⁴²⁾。この協定で両組織は各組織の理念、規則、組織形態に何ら変更をもたらすこと

なく独自の組織として従来どおりの活動を展開することとし、戦時合同委員会の役割を戦時傷病兵救護のための協同作業に限定した。委員会は当初、両組織から8名ずつ、計16名から構成され、議長に赤十字執行委員会議長A・スタンレイ(A. Stanly)、副議長に聖ヨハネ修道会事務局長H・ペロットが選出された⁴³⁾。

戦時合同委員会の目的は、傷病兵救護を政府と緊密な連絡をとりながら行うこと、そのために両組織が協力すること、タイムズ紙のアピールによって集められた募金を分配すること、活動および会計報告を行うことであった。また、活動を進めるために、委員会規則の策定、書記を始めとする必要な人員や小委員会の任命、緊急時の議長・副議長の権限内容が検討された。具体的活動としては、募金の収集、イギリス国内外の土地の確保と病院建設または建設援助、設備や備品その他必要なものの購入を行うとされた。そして、これまで個別に行われていた多様な活動は各部門に組織され、戦争の拡大に伴って活動部門は増加していった⁴⁴⁾。

戦時合同委員会が設立されると赤十字と聖ヨハネ修道会はそれぞれの組織のメンバーに通達を送り、この決定を報告すると共に過去の両組織の軋轢を忘れ、傷病者の救助のために対等の関係を築きながら協力しあうよう要請した⁴⁵⁾。戦時救護活動は戦時合同委員会の設立で新たな段階に入った。戦時合同委員会には、次々に活動部門がつくられていった(表3参照)。

戦時合同委員会が生まれた1914年には、補助国内病院、教会からの募金、募金委員会、回復期・物品支給委員会、病院列車、事務所の管理運営、医療要員、救急車、看護婦、将校のための回復期病院、要員とその移動、倉庫・輸送、ユニフォームなど以前から行われてきた活動お

表3 イギリス赤十字社・聖ヨハネ修道会戦時合同委員会各部門

委員会・部門名	役職名・人数	合計人数*	活動開始年
・戦時合同委員会	議長1・副議長1・事務局長1・事務官1・委員31	39	1914. 10.
・国内補助病院（部門）	局長1・事務官1	2	1914. 10.
・教会の寄付金（部門）	局長1	1	1914. 10.
・募金委員会	議長1	2	1914. 10.
・回復期キャンプ（物品）支給委員会	局長1	3	1914. 10.
・病院列車（部門）	職名なし1	1	1914. 10.
・事務所管理運営（部門）	局長1	1	1914. 10.
・医療要員局	職名なし2	3	1914. 10.
・救急車部門	局長1	2	1914. 10.
・看護婦（部門）	看護婦長1	1	1914. 10.
・将校のための回復期病院（部門）	局長1	1	1914. 10.
・要員・移動（部門）	局長1	2	1914. 10.
・倉庫・輸送（部門）	局長1	1	1914. 10.
・ユニフォーム（部門）	局長1	2	1914. 10.
・キングジョージ病院委員会	議長1	1	1914. 12.
・合同女性ボランティア救護部隊委員会	議長1	2	1915. 1
・戦時合同財政委員会	議長1・副議長1・事務官1・補助事務官1・委員11	15	1915. 2.
・負傷・行方不明（部門）	局長1	2	1915. 4.
・モーターボート・病院船（部門）	局長1	1	1915. 8
・中央事務所	会長1・副会長2・議長1・財務部長1・事務官1	7	1915. 10.
・戦時図書館（部門）	局長2	2	1915. 11.
・中央捕虜委員会	議長1・副議長兼管理運営責任者1・事務官1・委員14	18	1916. 9.
・中央合同ボランティア救護部隊委員会	役職名なし1	1	1916. 11.
・整形外科（部門）	局長1	1	1917. 5.
・義肢部門	局長1・事務官1・補助事務官1	3	1918. 9.
・中央復員局	議長1・副議長1・事務官1・補助事務官1・委員5	10	1918. 10.

注：1）各部門は、1919年12月31日まで活動を継続した。

2）合計人数は、途中の交代人数も含む。役職以外のスタッフやボランティアの人数は原資料で除外されている。

出所：Reports by Joint War Committee and the Joint War Finance Committee of the British Red Cross Society and the Order of St. John of Jerusalem in England on Voluntary Aid rendered to the Sick and Wounded at Home and Abroad and to British Prisoners of War, 1914-1919, with Appendices (London: HMSO, 1921), pp.6-9より筆者作成。

および戦時救護活動に関わる最低限必要な部門が戦時合同委員会のもとにまず作られた。

1915年に入ると、戦時合同委員会は、女性合同ボランティア救護部隊、財政委員会、行方不明捜索、戦時図書館、モーターボート・病院船の部門を設立した。1915年の春ごろまで続けられた政府の「通常通りの業務（Business as Usual）」の方針は、戦争の長期化の可能性の前に転換を迫られた。5月に新しく誕生した連合政府は軍需省を設立し、戦時合同委員会は政府と共に総力戦に備えようとした。

1916年5月、政府は徴兵制を導入したが、それと歩調をあわせるように戦時合同委員会は新たに中央合同ボランティア救護部隊委員会を作り、医療関係だけではなく一般的な活動にもボランティア救護部隊員を参加させ、人員不足を補いはじめた。また、捕虜の問題が大きくなり、中央捕虜委員会も生まれた。戦争の激化は多くの負傷兵を生み出したが、障害を負った兵士のための整形外科部門が1917年に、義肢部門が1918年にそれぞれ設立された。そして、戦争が終わろうとする1918年10月には、復員してくる兵士のために中央復員局が作られた。戦時合同委員会は戦争の進展と政府の戦争政策にあわせるように、必要な部門を次々に設立していった。

戦時合同委員会の活動が拡大していくに伴い、スタッフも増加していった。終戦直前の1918年10月20日、本部には850人の有給スタッフがいた。そのうち480人が中央捕虜委員会、倉庫部門に71人、合同女性ボランティア救護部隊委員会に57人が、所属していた。無給スタッフも503人いたが、そのうち中央捕虜委員会に224人、合同女性ボランティア救護部隊委員会に58人、負傷・行方不明部門に163人が働

いていた。合同委員会のもとで働いている要員は国内外あわせて9,234人に達していた⁴⁶⁾。重要部門では、有給スタッフと共に無給スタッフも大きな力を発揮したが、女性ボランティア救護部隊委員会では、ほぼ同数の有給・無給スタッフが働き、戦争終結まで活発に活動を続けた。ボランティア救護部隊だけではなく、戦時合同委員会事務局の各部門でも、多数のボランティアな働き手がその活動を支えていた。

おわりに

本稿では、1909年のボランティア救護部隊設立から第一次世界大戦期にかけてのイギリスの戦時救護体制の確立過程をみてきた。そのなかで特に、ボランティア救護計画の確立と戦時合同委員会の成立にかかわって、赤十字社と陸軍省および聖ヨハネ救急車協会がどのような関係を構築していったのかに焦点をあてて検討してきた。

戦時救護活動の最大の担い手であったイギリス赤十字社は、対外的には当然のことながら一つの赤十字社であった。しかし、内実は、赤十字社と聖ヨハネ修道会によってイギリス赤十字社の活動は構成されていた。陸軍省は、赤十字社を統括機関とする統一的な戦時救護組織の確立を迫りはしたが、一方で、戦時傷病兵救護に長い歴史を持つ聖ヨハネ修道会と赤十字社を並列におく扱いをした。このアンビバレンツな陸軍省の態度は、戦時救護活動の統括組織となることを望んでいた赤十字社を時に落胆させもした。

陸軍省は、赤十字社を頂点とする中央集権的な戦時救護組織を作ろうとはしなかったのである。その第一の理由は、陸軍省はできるだけ公

的資金を使用せず、国民からのボランティアな資金と人材に依拠しようとしたからである。それが、財政上最も安上がりな方法であった⁴⁷⁾。そのためには、赤十字社をはじめ既に存在しているボランティア組織の独自活動を認める必要があった。

第二に、陸軍省は、財政上の問題だけでなく、イギリス社会に深く根付いていたボランティア組織とその活動の実績を無視することができなかった。陸軍省は、ボランティア組織と共同で取り組むべき問題が生じた時には、各組織を集めて会議を開催したり、臨時の委員会を設置したりすることによって課題の解決を図った。陸軍省と諸組織が協力した時には大きな力を発揮することは、戦時合同委員会が設置されて以来、戦時救護活動が大きく進展したことによって証明された。

一方、ボランティア組織は、陸軍省を頂点とする強固な中央集権的救護体制が作られなかったために、一定の主体性を維持することができた。そのことにより、ボランティア救護組織は、相互に共同歩調をとり、補い合い、結果として大きな力となった。赤十字社をはじめとする諸組織による多数のボランティア救護部隊の設立は、そのことを証明した。

そして、1914年10月の戦時合同委員会の設立は、ボランティア諸組織の共同行動を一步押し進めると同時に、陸軍省とボランティア諸組織による戦時救護体制の確立を意味した。戦時合同委員会は、陸軍省および政府と緊密な連携を保ちつつ、傷病兵救護という領域にとどまらず、戦争遂行のために求められるさまざまな活動に携わっていった。戦時合同委員会の活動を支えたのは、有給のスタッフと共に、ボランティア救護部隊員を含む多数の無給で働くボラン

タリーなスタッフであった。

陸軍省は、ボランティア諸組織とボランティアな意志で救護活動に参加する人々の力を最大限活用した。これこそが、イギリスにおける戦時救護体制の特徴であった。

公的支援を受けることで活動の範囲と内容を高めようとするボランティア組織と、ボランティア組織とその活動を利用しようとする公的機関の関係がイギリス特有の公的機関とボランティア組織のパートナーシップを生み出した。赤十字社および聖ヨハネ救急車協会と陸軍省の関係は、イギリスにおけるその後のボランティア組織と公的機関との関係の一つの典型を作り出した。

注

- 1) 拙稿、「1909年イギリス赤十字社[ボランティア救護部隊 Voluntary Aid Detachments: VAD]の誕生」(『立命館産業社会論集』第37巻第3号、2001年12月所収)では、Voluntary Aid DetachmentsのAidを「救助」と訳したが、従来からの日本における訳語を再検討し、より適切なことばとして「救護」という用語を当てることにした。以後、本稿では、Voluntary Aid Detachmentsについて、「ボランティア救護部隊」という用語を当てることに訂正する。
- 2) 聖ヨハネ救急車協会は、1899年から1902年にかけての南アフリカ戦争では2000人以上の衛生兵(Medical Orderlies)を派遣した(E.Charles Vivian and J.E.Hodder Williams, *The Way of the Red Cross*, London: Hodder Stoughton, 1915, pp.221-225)。
- 3) 第一次世界大戦期の赤十字およびボランティア救護部隊に関する資料としては、第一に、*The Women at Work Collection in the Imperial War Museum, Part 2: The British Red Cross Society, Colonies, Decorations and Honours and Education* (London: Harvester Microform,

1985) (以下、同じファイルからの引用については、*The Women at Work Collection*と表記)があるが、これは第一次世界大戦における女性の活動に関する記録である。日記、通信文、パンフレット、メモ、写真、新聞、雑誌などを通して多岐にわたる赤十字の活動と女性の戦争参加の実態を記録している膨大な資料であり、ボランティア救護部隊に関しても多方面にわたる詳細な記述がある。第二に、赤十字と聖ヨハネ修道会が共同で行った戦時救護活動の記録としては、*Reports by the Joint War Committee and the Joint War Finance Committee of the British Red Cross Society and the Order of St. John of Jerusalem in England on Voluntary Aid rendered to the Sick and Wounded at Home and Abroad and to British Prisoners of War, 1914-1919, with Appendices* (London: HMSO, 1921) (以下、同じ報告書からの引用については、*Reports by the Joint War Committee*と表記)がある。1914年8月、イギリスは第一次世界大戦に参加したが、それを受けて10月20日、赤十字と聖ヨハネ修道会は「戦時合同委員会」を設置した。それ以降、共同で戦時救護活動が展開されたが、これはその記録である。ここには、管理運営、財政、人事、病院、救急車、海外での活動など「戦時合同委員会」が行った活動のほとんどが網羅されており、「ボランティア救護部門」の記録の中にボランティア救護部隊の活動についても報告されている。また、個人による記録としては、まず、第一に、W. G. マクファーソン (W.G. Macpherson) 少将による *Medical Services General History, vol.1: Medical Services in the United Kingdom; in British Garrisons Overseas; and During Operations against Tsingtau, in Togoland, the Cameroons, and South-West Africa* (London: HMSO, 1921) がある。当時の軍の指導部の一人であったマクファーソンが、第一次世界大戦における軍の医療活動について記録したものである。戦争前の準備段階から軍医療部の管理、病院運営、救助人員の確保、外国での医療活動等について総合的に述べたものであり、その中で赤十字とボランタ

リー救護部隊の活動についてもふれている。第二に赤十字協議会の副議長であった A. K. ロイド (A.K.Loyd) による *An Outline of the History of the British Red Cross Society-from its Foundation in 1870 to the Outbreak of the War in 1914* (London: British Red Cross Society, 1917) がある。 *Medical Services General History* が軍の指導者によって書かれたのに対して、これは、赤十字の指導者によって書かれたものであり、戦争初期までという限定された期間ではあるが、赤十字の指導者からみた軍や他のボランティア組織との関係および戦時救護活動が記録されている。ボランティア救護部隊の女性隊員に焦点をあてた研究としては、A. サマーズ (Anne Summers) の *Angels and Citizens: British Women as Military Nurses, 1854-1914* (London and New York: Routledge and Kegan Paul, 1988) がある。A. サマーズは看護部隊としてのボランティア救護部隊の果たした役割とともに、参加した女性たちの多くが、戦後、家庭に帰っていった事実に触れながら、なお、彼女たちの経験が後の社会に何らかの影響を与えたことを示唆している。また、S. オーディット (Sharon Ouditt) は、*Fighting Forces, writing Women: Identity and Ideology in the First World War* (London: Routledge, 1994) でボランティア救護部隊に参加するなかで自らのアイデンティティの確立を求めて苦闘する女性の姿と、当時の女性をめぐるイデオロギーを分析している。

- 4) J.F.Hutchinson, *Champions of Charity*, Boulder: Westview, 1996.
- 5) ハチンソンが明らかにしたボランティア諸組織と陸軍省の関係が、第一次世界大戦中に変化したのか、継続したのかを確認するだけでなく、ボランティア救護部隊における女性たちの活動が意味するものを明らかにしたい。というのも、ボランティア救護部隊は、イギリスの歴史上はじめて、多数の女性たちがボランティアな意志で参加していった戦時救護活動だったからである。しかし、この問題は本論文の範囲ではない。
- 6) A.K.Loyd, *An Outline of the History of the British Red Cross Society-from its Foundation*

- in 1870 to the Outbreak of the War in 1914*, London: British Red Cross Society, 1917, p.41.
- 7) 決定は、軍評議会との相談の上になされた。これ以外にも、薬剤師、正規看護婦、コックとしてボランティア救護部隊に加入する者は、応急処置と家庭看護の証明書は不要と決められた(Hutchinson, *op.cit.*, p.42)。
- 8) 「陸軍省ボランティア救護部隊諮問委員会」設立に先立って、陸軍省は非公式の会議を持ち、赤十字と聖ヨハネ救急車協会が参加していた。陸軍省は前もって、両組織の意向を確認しておきたかったのである(Hutchinson, *op.cit.*, p.43)。
- 9) J.F.Hutchinson, *Ibid.*, p.44.
- 10) W.G.Macpherson, *The Role of Red Cross Societies in Peace and War, Journal of the Royal United Service Institution 1, No.357*, 1907, p.1361.
- 11) The British Red Cross Society, *British Red Cross, Form D(4) Red Cross Voluntary Aid Detachments-First Aid and Nursing Certificates*, 1911.11.14.
- 12) フロレンス・ナイチンゲール, 湯楨ます監修『ナイチンゲール著作集 第一巻』, 現代社, 1987年, 459頁。
- 13) 前掲, 『ナイチンゲール著作集 第二巻』, 78~79頁
- 14) 前掲, 『ナイチンゲール著作集 第二巻』, 81~83頁
- 15) Anne Summers, *Angels and Citizens: British Women as Military Nurses, 1854-1914*, London and New York: Routledge and Kegan Paul, 1988, p.262.
- 16) 「バルカン戦争基金」への募金アピールの中で、赤十字執行委員会議長ロスチャイルド卿は、赤十字の一般募金はイギリス軍が参加する戦争でのみ使われるため、他国同士の戦争では新たに募金を募らなければならないことを説明している。通常の募金はイギリス軍のために保管されていた(Loyd, *op.cit.*, p.51)。
- 17) A.K.Loyd, *op.cit.*, p.53.
- 18) *Ibid.*, pp.49-50.
- 19) British Red Cross Society, *British Red Cross, Form A*, 1913.7.18.
- 20) 赤十字国際委員会部長であったジャン・S・ピクテは赤十字という機構の国家的性格とその救護活動の現実を「救護活動が盛んとなる戦時においては、各国の政府及び赤十字社は、その国の人を主として救護する。それはこれらの機構の国家的性格に省み当然のことである」と冷静に見つめた(ジャン・S・ピクテ, 井上益太郎訳『赤十字の諸原則』, 日本赤十字社, 1958年, 52頁)。第一次世界大戦当時、まだ誕生して間もない赤十字は、総力戦の中でいかに自国の兵士の救護活動を行うかに全力を注ぎ、ピクテが指摘した「国家的機構」としての役割を果たしていった。
- 21) 戦時マニュアルは以下のように、聖ヨハネ救急車協会と聖アンドリュウ救急車協会を除くボランティア組織をその援助内容によって二種類にわけ、赤十字社が管理するとした。
- 戦時の傷病兵救護にかかわる聖ヨハネ救急車協会と聖アンドリュウ救急車協会以外のすべてのボランティア諸組織の申し出は、赤十字社に提出すること。赤十字社はそれらの申し出が実際の価値があると判断した場合、軍評議会に連絡をとる。
- 活用されることになったボランティア組織は、二種類に分類される。
- i. 軍隊へ贈り物を送るか、または個人宅に回復期の患者を受け入れようとする人びとの組織
 - ii. 病院、休息所、簡易食堂、傷病者のための輸送部隊、病院船、救急列車のような医療部隊に建造物を提供しようとする組織 (iの組織について)
- ・ iのボランティア組織は贈り物を集め、明細書と共に赤十字社による管理のもとで中央倉庫へ送ること。
 - ・ 国内で回復期患者である将校や兵士を受け入れようと思う者は、戦争勃発時に赤十字社の書記に連絡を取ること。
- (iiの組織について)
- iiのボランティア組織は戦争勃発時に手紙で提案物件に関する詳細な説明と共に物件を赤

十字社に提供すること。

(Field Service Regulations, Part : Organization and Administration), A.K. Loyd, *op.cit.*, p.59.

- 22) Sharon Ouditt, *Fighting Forces, Writing Women: Identity and Ideology in the First world War*, London: Routledge, 1994, p.12.

- 23) *Reports by the Joint War Committee*, p.693.

- 24) 8月8日にタイムズ紙に掲載されたアレキサンドラ王妃の国民へのアピールは次のようなものであった。

100年前にヨーロッパを荒廃させたナポレオン戦争よりもっと大きな恐ろしい戦争が我々に襲いかかっています。

何千と言う勇敢な水兵や兵士がイギリスの海岸と国の名誉を守るためにすでに立ち上がっています。彼らの苦難は大きく、彼らは私たちに慰めと救助を求めているのです。彼らの願いに応えなければなりません。

イギリス赤十字社の総裁として、私は、皆さんの支援に訴えます。あなた方が人道の名においてこの訴えに応えてくれることを確信しています。もし、私たちが、忠実に信頼に応え、すべてが終わった時に、傷病兵の慰めと救助のためにやるべきことはすべてなしたと言おうとするならば、もっと多くの募金と物資が必要なのです。

偉大なイギリス国民の心は、確実に、そして、惜しみなく、国の大儀を雄々しく支えている人々に注がれるでしょう。

アレキサンドラ

イギリス赤十字社総裁

執行委員会議長ロスチャイルド卿も、赤十字社と聖ヨハネ救急車協会が共同で救護活動に取り組んでいることを強調し、国民に訴えた。(A.K. Loyd, *op.cit.*, pp.58-62.)

- 25) A.K.Loyd, *op.cit.*, p.61.

- 26) *Ibid.*, p.66.

- 27) *Ibid.*, p.66.

- 28) ブライアン・エイベル・スミス、多田羅浩三・大和田健太郎訳『英国の病院と医療 二百年の歩み』、保健同人社、1981年、265頁。原書は、Brian Abel-Smith, *The Hospitals 1800-1948 : A Study in Social Administration in*

England and Wales, London : Heinemann, 1964.

- 29) 'Summary of Six Manth's Work from Declaration of War, 2nd August, 1914 to 3rd February, 1915', p.1, *The Women at Work Collection*, Reel, No, 25.

- 30) *Ibid.*, p.1.

- 31) *Ibid.*, p.2.

- 32) *Ibid.*, p.14.

- 33) *Ibid.*, pp.8-9. なお、赤十字募金の要請に応えたのは、弁護士、会計士、弁護士・判事の助手、ロンドン・クラブ、造船業、皮革業、ロンドン商業組合、保険会社、大学、織物業、製粉業、ホテル業、奉公人組合、石炭業、靴業、映画産業、食糧雑貨販売業、競馬業界、イギリス農民団体、不動産執行者団体など、あらゆる職種におよんだ。各宗派の教会は、早くからすでに募金活動を行っていた。

- 34) *Ibid.*, p.9.

- 35) 「Our Day」には、警察の許可のもとで道路での募金活動も許され、イギリス全土はもちろん、カナダ、エジプト、オーストラリア、ニュージーランドを始めとするイギリス植民地や保護領などからも募金が集められた。王室メンバーは国民へ募金支援を訴えた。ロンドンではコンサートが開かれ、入場料は募金に回された。('Our Day -October 21st, 1915-' *The Women at Work Collection* (BRCS/20), Reel, No, 25.

- 36) W.G.Macpherson, *op.cit.*, p.214.

- 37) *Ibid.*, p.214.

- 38) W.G.Macpherson, *op.cit.*, p.213.

- 39) A.K.Loyd, *op.cit.*, pp.71-72.

- 40) *Ibid.*, p.69.

- 41) *Ibid.*, pp.74-75.

- 42) *Reports by the Joint War Comittee*, p.5.

- 43) *Ibid.*, p.5.

- 44) *Ibid.*, pp.619-620.

- 45) W.G.Macpherson, p.215.

- 46) *Reports by the Joint War Committee*, p.11.

- 47) 前掲、ブライアン・エイベル・スミス、267頁参照。ボランティア組織への国民からの寄付金は多く、特に赤十字は上流階級の賛同者が多い

こと、国民の間の知名度の高いことにより、巨額の寄付金を集めることができた。陸軍省にとってこれら赤十字をはじめとするボランティア諸組織の資金は、大いに魅力的な資金源であった。

Wartime Aid Activities during World War in England

Establishment of Voluntary Aid Detachments of the British Red Cross Society and the Formation of the Joint War Committee

KUROKAWA Ayako *

Abstract: In 1909, before World War , the War Office established “Scheme for the Organization of Voluntary Aid in England and Wales” for aiding the sick and wounded in times of War. By establishing Voluntary Aid Detachments, the War Office tried to create a wartime aid system in which the British Red Cross Society was the only aid organization for the sick and wounded. This created a struggle for leadership between the British Red Cross Society and the St. John Ambulance Association, which preceded the British Red Cross Society. However, these two organizations made efforts to set up Voluntary Aid Detachments for the common purpose of fighting a total war while overcoming the discord between them. As a result, Voluntary Aid Detachments were set up throughout England from 1910 to 1918. The number of detachments totaled 3382 by 1918. A great number of people, especially women, worked as volunteers at the detachments. Furthermore, responding to the needs of the War Office, the British Red Cross Society and the Order of St. John, which is the parent organization of the St. John Ambulance Association, set up the “Joint War Committee of the British Red Cross Society and the Order of St. John of Jerusalem in England” in October 1914. Although the British Red Cross Society appeared to be the only wartime aid organization, in fact it was composed of the two organizations. After formation of the Joint War Committee, these two organizations jointly took part in aid activities under the name of the Red Cross. The War Office established an efficient wartime relief work system for voluntary organizations such as the British Red Cross Society and the Order of St. John. This was very characteristic of wartime aid systems in England, which took advantage of voluntary organizations and the people who supported them.

Keywords: Red Cross Society, Voluntary Aid Detachments, St. John Ambulance Association, Joint War Committee, partnership

* Graduate Student, Graduate School of Sociology, Ritsumeikan University